

社会福祉法人 やまなみ会

平成 27 年度 事業報告書

福祉サービスセンターほっと館

居宅介護事業所

通所介護事業所

訪問介護事業所

平成 27 年度事業報告書

目 次

1. はじめに
2. 依託業務報告
3. 各事業所報告
 - 居宅介護事業所
 - 通所介護事業所
 - 訪問介護事業所

1. はじめに

平成 27 年度はと館では、地域住民との関わりを重視し、介護保険サービス、障害者支援サービスはもとより、行政からの委託業務の他、老人会や婦人会からの講習会、認知症サポーター養成講座の依頼などにも積極的に対応してきました。その結果、業務が増大し職員の負担が大きくなってしまいましたが、本来の業務が煩雑にならないよう注意し、職員の誰もが不備なく対応できる様、職員教育にも力を入れてきました。また、職員もレベルアップを目指し資格取得に努めました。今年度は、社会福祉主事 1 名、社会福祉士 1 名、福祉有償運送運転者 2 名（外出支援対応）、衛生推進者 1 名、学習療法マスター 2 名の資格取得増となりました。今後も知識や技術を習得し、職員同士資質向上の為にも資格取得にチャレンジしていき、地域から頼られる事業所として活動していきます。

2. 産山村委託業務報告

- ・ 外出支援事業 () は 26 年度
村内 76 (78) 件、村外 232 (268) 件、熊本市内・大分等 41 (40) 件／年
- ・ 配食サービス事業
1,596 (2,086) 食／年
- ・ 軽度生活支援事業
142 (154) 回／年
- ・ 認定調査
9 (34) 件／年
- ・ 輝き教室（特定高齢者支援事業）
36 (21) 回／年
- ・ サロン活動（公民館活動）
86 (87) 回／年
- 相談業務（総合相談事業）
304 (307) 件／年

3. 事業所報告

各事業所報告は次の通り

居宅介護支援事業所

平成 27 年度の給付管理数（別紙表・グラフ参照）は、年間の介護保険利用者総数 1,040 件（前年度 868 件）、居宅介護支援費 1,073,900 円（前年度 9,631,970 円）であった。平成 26 年度と比べ介護保険件数、支援費ともに増加した。前年度と比べ要介護が 95 件増の 792 件、要支援 77 件増の 248 件となり、特に要介護の増加が支援費の増加の要因となった。

介護保険利用者数の増加については

- ① 日常的に関係機関（産山村住民課、産山村包括支援センター、産山村診療所、各医療機関、民生委員等）情報交換、情報収集を行ったこと。
- ② 介護が必要な方については早期に訪問・面談を行ったこと。
- ③ 地域住民からの相談業務、地域サロン活動、輝き教室（介護予防活動）、キャラバンメイト活動（認知症サポーター養成講座）等を行い、地域の方々との交流を積極的に行ったこと。

以上①から③と、以下に記載した重点的な取組を行ったことが、総数・支援費ともに増加した要因であると思われる。

重点的な取組について

1 課題分析（アセスメント）の実施

- ・本人や家族との面談、利用サービス事業所からの聞き取り、認定調査票、主治医意見書等から情報収集を行い、支援の方向性を明確にできた。

2 居宅・介護予防サービス計画の作成及び利用者への説明・交付

- ・介護保険更新時毎に行えた。

3 介護支援専門員・サービス計画数

- ・居宅サービス計画数は月平均 66（予定 70）、介護予防居宅サービス計画は月平均約 20（予定 15）であった。特養入居や入院等により居宅サービス計画数は減少し、目標が達成できなかった。

4 居宅訪問の実施

- ・月 1 回（要支援者は 3 月に 1 回）行えた。

5 居宅・介護予防サービス計画の実施の把握（モニタリング）・記録

- ・4 の実施時に行い、記録もできた。

6 サービス担当者会議の開催

- ・介護保険更新時や退院時にそれぞれ行えた。

7 入院や介護施設等との連絡調整

- ・入院時には情報提供を行い、退院時には退院カンファレンス等可能な限り参加できた。
- 8 個人情報の保護の徹底**
- ・問題なく取り扱えた。
- 9 苦情処理**
- ・特に苦情もなく、問題なかった。
- 10 職員の専門性と資質向上**
- ・月1回の施設内研修、各専門分野（介護支援専門員、認知症ケア専門士）に参加し、資質向上に努めた。
- 11 サービス評価**
- ・介護保険更新時等に実施できた。
- 12 情報公開**
- ・年1回「介護サービス情報の公表」制度で適切な情報公開を行った。
- 13 給付管理**
- ・返戻や修正、請求漏れがないよう複数の職員で確認を行った。
 - ・要支援者については包括支援センターへ実績表を作成し、確認を行った。
- 14 職員の健康管理**
- ・年1回の健康診断を行った。再検査等の実施はなかった。

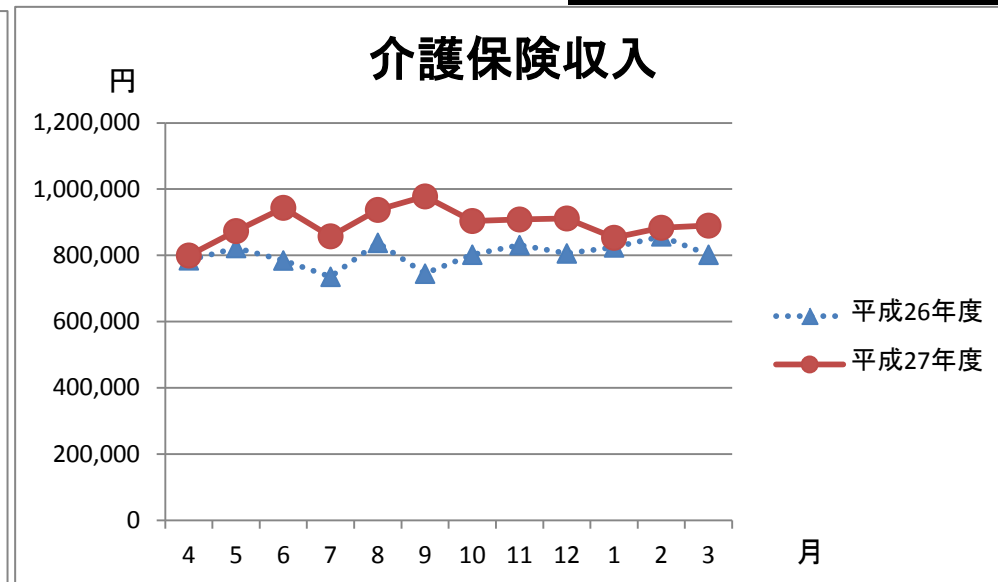
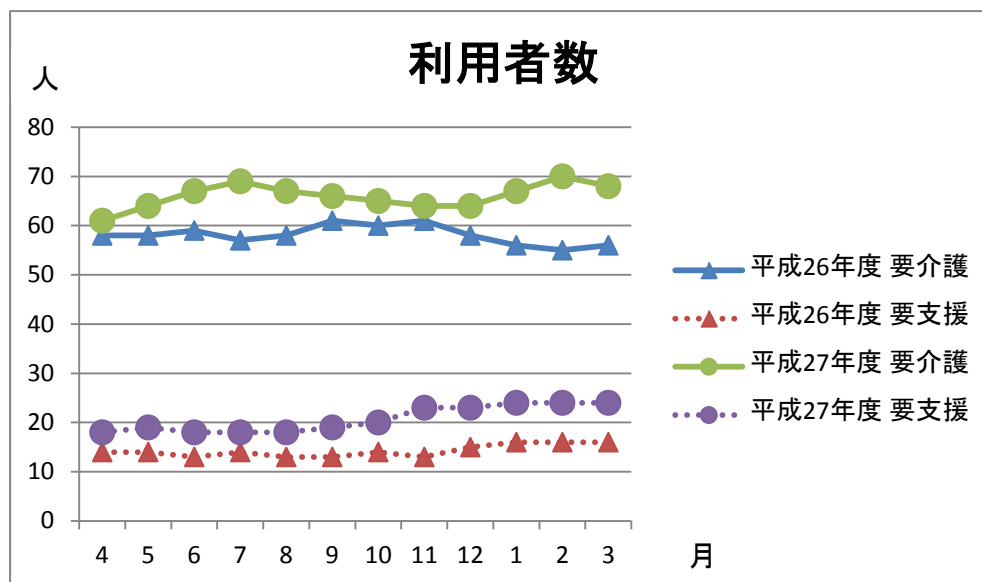
利用者数(人)

年度	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成26年度	要介護	58	58	59	57	58	61	60	61	58	56	55	56	697
	要支援	14	14	13	14	13	13	14	13	15	16	16	16	171
	合計(人)	72	72	72	71	71	74	74	74	73	72	71	72	868
平成27年度	要介護	61	64	67	69	67	66	65	64	64	67	70	68	792
	要支援	18	19	18	18	18	19	20	23	23	24	24	24	248
	合計(人)	79	83	85	87	85	85	85	87	87	91	94	92	1040
27年度—26年度													172	

介護保険収入(円)

年度	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成26年度		785,180	822,280	784,560	735,320	837,870	744,700	801,980	830,820	805,800	824,080	857,580	801,800	9,631,970
平成27年度		799,600	873,380	943,540	857,480	937,280	977,980	903,740	908,360	911,380	853,100	883,380	889,780	10,739,000
27年度—26年度													1,107,030	

4



通所介護事業所

通所介護予防事業所

通所介護事業所では、本年度も利用率の向上と利用者一人一人に合った機能訓練の実施、関係機関及び事業所との連携を強化することにより、サービスの質の向上を図る事を目標として一年間活動を行なってきた。

予防通所介護事業所では、利用者様が要介護状態にならないように、ご利用者様ごとの個別対応を目標にサービスの提供を行なってきた。デイサービスセンター内でのご利用者様の動作をすべて生活上のリハビリと捉え、移動・食事・入浴・排泄等の行為もご利用者様の残存能力を引き出す様にアプローチし生活意欲の向上、自立した生活につながるようサポートを行なった。

また、新規利用者の獲得や利用日の追加等により前年度に比べ562名の増加、売り上げも約300万円増加し前年度に比べ数値を上回ることが出来た。

1 ご利用者様個々の状態に合わせた個別ケア

本年度も、看護職員が主体となり訪問リハの今村理学療法士の助言を受け、ご利用者様の状態に合わせた機能訓練を行なった。個別ケアとして、ボール体操、プーリー運動、ロコモ体操等を実施した。今後も利用者様を中心としたサービスを展開していきたい。

2 認知症ケアの充実

くもん学習療法や回想法、日記などを通じ認知症ケアを行なっている。その他に園芸療法では作業を通し、適度な運動を伴う作業の中で仲間との会話を楽しまれ、収穫したものを昼食として提供し好評であった。くもん学習療法は現在3名の利用となっており利用ごとに実施。今後も定期的な測定の実施と日常生活の目標設定を再度行ない認知症ケアの充実と症状の維持を図っていく。

3 地域との積極的な交流

本年度も産山村の文化祭に各クラブの作品を展示。ご利用者方も文化祭に向け意欲的に制作されていた。また子どもヘルパーや職場体験等の受け入れもあり利用者様と地域の方との交流も以前に比べ増えている。地域への発信という面では、毎月広報をご利用者様、ご家族様へ配布。また村の広報にも記載しほつと館内での活動の紹介を行ない地域交流の推進を図った。

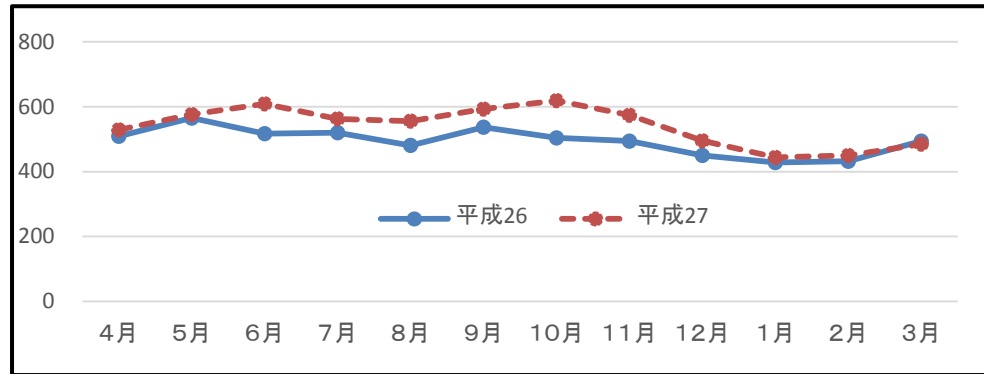
4 専門性の向上、職員の資質向上

月に一度館内にて勉強会やマニュアルの周知を行ない、各職員のレベルアップを図っていった。今年度は、月に二名ずつ研修内容に沿い事前にキーワードを伝え、各自調べ発表する機会を作った。自身で調べ、発表する事により知識が増え各職員のレベルアップにつながりケアの向上が見られた。今後も継続していき専門性を高めプロとしての意識を持ちサービスの質の向上に努めていきたい。

平成26、27年度
利用者数、利用料、介護保険収入 比較

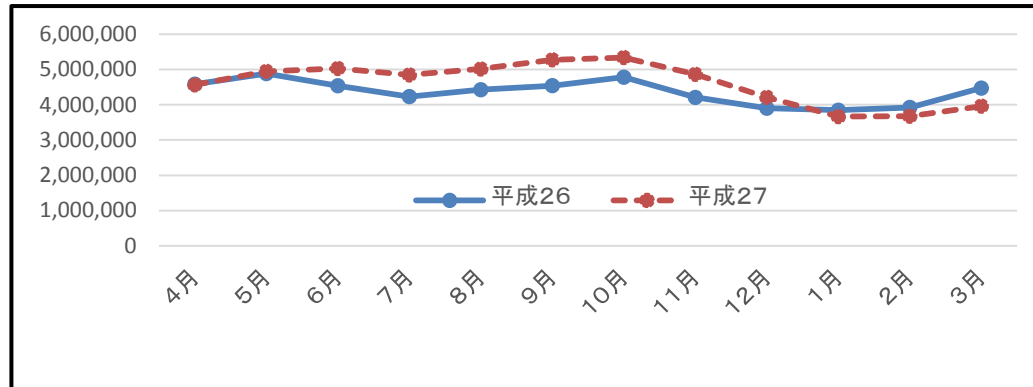
利用者数(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成26	509	565	517	520	481	537	504	494	450	428	432	494	5,931
平成27	529	576	609	563	556	593	619	574	495	444	450	485	6,493
	27年度—26年度												562



利用料・介護保険収入(円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成26	4,582,952	4,883,759	4,538,967	4,231,950	4,426,211	4,541,845	4,780,502	4,207,687	3,902,316	3,845,187	3,924,675	4,471,606	52,337,657
平成27	4,563,520	4,946,461	5,029,117	4,845,571	5,015,098	5,274,786	5,339,209	4,863,023	4,212,580	3,663,891	3,675,076	3,961,605	55,389,937
	27年度—26年度												3,052,280



勉強会

	内容	参加人数
4月	認知症とその対応	13
5月	感染症	11
6月	非常災害時の対応について	10
7月	リスクマネジメント	10
8月	社会保障と介護予防	5
9月	個人情報・プライバシー保護	12
10月	事例検討会	10
11月	感染症について	5
12月	身体拘束	5
2月	プランの立て方・介護倫理と法令順守	5
3月	記録について	6

行事

	内容	参加人数
4月	・花見	45
5月	・バラ見学（花阿蘇美）	45
6月	・陶芸教室	50
	・誕生会（4・5・6月）	24
7月	・七夕（保育園児との交流）	15
8月	・そうめん流し	50
	・外食（ジョイフル）	50
9月	・敬老会、誕生会（7・8・9月）	50
	・彼岸花見学（七つ森古墳）	50
10月	・紅葉見学（瀬の本）	40
11月	・漬物づくり	25
12月	・クリスマス会、誕生会（10・11・12月）	38
1月	・初詣	39
2月	・買い物	25
	・節分	39
3月	・買い物	14

訪問介護・予防訪問介護事業所

訪問介護事業所では、本年度もご利用様が在宅生活の継続ができるよう、ご利用者の立場になった支援とご家族との連携など考慮して、自宅で安心して過ごせるよう支援を行った。

またご利用者様のできることを把握し過剰介護にならないように配慮しながら支援を行いまた体調の変化などの気づきなどを各機関に報告し、重篤にならないよう心掛けた。

前年度と比較して要介護の売り上げが減ったのは、在宅での身体介護の需要が減っていたことと、介護報酬の値下がりに伴った結果だと思われる。

要支援の方では阿蘇市の利用者の支援が増えたことで売り上げが伸びていた。障がい者総合支援法では現在2名のご利用があっている。依頼があれば支援を広げていきたい。

軽度支援では冬場の入院などに伴い売り上げが落ちていた。村と連携を図りながら介護保険同様にサービスに事業の拡大に努めたい。

(1) サービス提供と質の向上

① ケアプランに基づいた介護計画の作成と提供・評価

- ・サービス提供責任者はご利用者様のアセスメントを行い、ケアプランに基づいた介護計画の作成を行い実践に努めた。
- ・訪問介護員が統一したサービスを提供できるよう、ケアの手順や内容の確認、情報共有を行ないまた技術なども共有出来るように努めた。
- ・定期的な訪問を行い適切な支援が出来ているかの確認やニーズ等に変化があった場合にはケアマネージャ等に報告相談を行いながら支援の変更の依頼も行った。

② 職員の資質の向上と人材育成

- ・各研修会にはなかなか参加できなかったが、事業所内での勉強会などに参加し、業務に対する知識・技能の向上に努めた。
- ・施設内の研修などには参加しレベルアップを図ったが事業所内の勉強会に関しては、職員の時間がなかなかそろわずに十分な研修がとれていなかったため課題が残った。
- ・新人研修においては、カリキュラムに沿って実施した。

(2) 各機関との連携

- ・包括支援センター・居宅支援事業所・診療所・各病院・福祉サービス関係との連携をはかり、総合的にサービスの提供が出来るように務めた。

また担当者会議に参加し、ご家族、各機関との情報の共有・交換を行いご利用者様のケアにつなげる事が出来ていた。

(3) 利用者台帳の管理・整備・記録

- ・サービスの記録については各ヘルパーがサービス後に速やかに行い、ご利用者様の様子がわかりやすい記録になるよう努めた。
- ・また月末ごとに整備を行い、記録の不備がないか確認を行った。
- ・個人情報の管理はきちんと管理できていた。

(4) 守秘義務

- ・ご利用者様の情報や家庭内などの知り得た情報など漏らすことのないよう、定期的に個人個人に指導を行いプライバシーの保護の徹底に努めた。

(5) 障がい者総合支援法について

- ・障がい者総合支援法に基づき、ご利用者様の状態の把握に努め、尊重・尊厳を重視し、また計画に基づいた支援と安心・安全なケアを行った。
- ・ご利用者様、ご家族、保険者、関係施設との連携を図りながら支援の継続が出来るように努めた。

(7) 感染症の防止と衛生面での留意

- ・支援前後は石鹸などで手の洗淨を行い感染の防止に努めた。
- ・使用したエプロンは1件ごとに交換し、靴下も汚れたら交換し衛生的に努めた。
- ・身体介護時は必要に応じて使い捨て手袋を用いて感染などに留意した。
- ・訪問介護員が体調不良時は交替を行い、冬場は必ずマスクをつけるようにした。

(8) 職員の健康管理

- ・一人ひとり日頃の体調管理に心がけ、年1度の健康診断を受け、結果に応じた管理に努めていた。

(9) ご利用者様の緊急時の対応について

- ・個人個人の緊急時の対応マニュアルを実践できるようにしなければならないが、現場で実践できるよう事業所内で再確認をすることが課題になった。
- ・定期的に家族の連絡先など変更がないかの確認を行うことも課題に残った。

(10) 予防介護

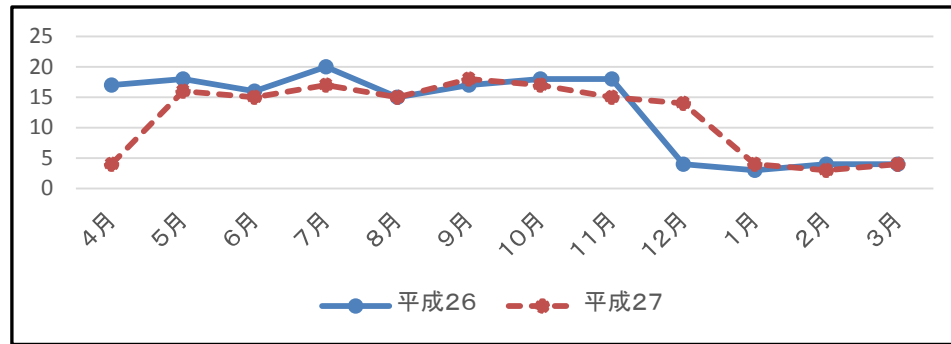
- ・ご利用者様が要介護状態等となることの予防や要介護状態等の軽減や悪化の防止等を留意しながら、過剰支援につながらない様にし、支援にあたった。
- ・ご利用者様一人ひとりの生きがいや自己実現のための取組や要望を把握し、計画的な支援を行い、生活の質の向上を目指した。
そのためにもヘルパーの検討会議を頻繁に行い支援の強化を図ることも課題に挙げたい。

軽度生活支援事業（村委託事業）

利用者数、利用料収入 比較

利用者数（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
平成26	17	18	16	20	15	17	18	18	4	3	4	4	154	
平成27	4	16	15	17	15	18	17	15	14	4	3	4	142	
													27年度－26年度	-12



利用料（円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
平成26	110,500	117,000	104,000	130,000	97,500	110,500	117,000	117,000	26,000	19,500	26,000	26,000	1,001,000	
平成27	26,000	104,000	97,500	110,500	97,500	117,000	110,500	97,500	91,000	26,000	19,500	26,000	923,000	
													27年度－26年度	-78,000

